学校訪問だより【9】 上松町立上松中学校

憧れの伝統芸能を学び継承していく

令和7年10月22日
中信教育事務所
文責：鳥居正人

９月１８日（木）に、上松中学校の総合的な学習の時間の授業（１年生）を参観させていただきました。１年生では「地域を学ぶ」をテーマに、郷土料理、上松町の歴史、伝統芸能の３つのコースの中から生徒自身が学習したいコースを選び、学習に励んでいます。今回は伝統芸能のコースを参観させていただきました。このコースでは文化祭での発表に向け、「のさののさ」という舞の練習中でした。

地域の方から伝統芸能を学ぶ

地域の方の願い

★少子高齢化で伝統芸能の継承が難しくなってきている。それでも、伝統芸能を継承してほしい。そして、大人になった時に、一人でも二人でも上松町に残って伝えていってほしい。
★地元に伝わる文化や地元の良さを知り、親しみ、地元愛を育んでいければいいなと思う。
★上若連（上松町の伝統芸能を伝承する祭典執行団体）の運営や存続が厳しいので、少しでも伝えていきたい。

担当の先生の思い

★地域の方々との交流、地域の方々から教えてもらうことは大切だと思う。
★地域の方のおかげで、生徒は少しでも良い舞を踊りたいと向上心をもって取り組んでいる。
★伝統芸能に憧れをもち、自分でもやってみたいと、このコースを選んだ。
★地域の方に熱心に指導していただき、文化祭での発表後、きっと生徒自身に何かしらの変化が起きるだろうと思う。
★地域の方々との交流を通して郷土愛を育てていきたい。

生徒の感想

★父が獅子や笛をやっていたので、自分もやってみたいと思って伝統芸能のコースを選んだ。
★笛の音が出ない、太鼓は叩くことが多いなど、思った以上に難しいけど、できると嬉しい。
★楽譜がなく、目で見て耳で聞いて代々伝わってきたことがすごいと思った。
★地域の方が、次の世代に伝えようとしてくれて嬉しい。
★伝統芸能に関われて嬉しい。仕事を休んで教えてくれる地域の方に感謝したい。大人ってカッコいいって思った。

１年生の総合的な学習の時間では、生徒たちが上松町の郷土料理や歴史、伝統芸能などについて学びます。生徒へのインタビューでは、「父親が上若連に入っていて、カッコいいと思っていた」「実際にやってみたいと思っていた」など、上若連の姿に憧れをもち、学べる機会を心待ちにしていたように感じました。少子高齢化によって、上松町の伝統芸能の継承が難しくなってきている今日ですが、伝統芸能を学びたいと願っている生徒がいて、伝えたいと思っている地域の大人がいます。

生徒たちが地域学習に取り組んだり地域の方との交流をしたりすることを通して、今日まで地域で大切に受け継がれてきた文化や伝統をより深く知るとともに豊かな学びとなると思います。それが地域愛を育み、さらには伝統文化の尊重、次世代への継承へとつながり、生徒自身が地元に貢献できることを考えるきっかけになるのではないかと思います。そして、地域が抱える課題にも目を向け、生徒自身の豊かな発想力を生かし、地域の方と関わり、協力しながらより良い地域づくりへとつながっていくのではないかと思います。